

資料2 鳥取県立美術館候補地評価表

候補地：鳥取市役所跡地

	1 様々な人が気軽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携し易い場所		3 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所	
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の観光施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携し易い立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。
宇山委員	○	交通アクセスは十分確保されている。	-	-	×	-
船越委員	△	中心市街地にあり公共交通機関によるアクセスは便利かつ容易であると評価できる。但、自家用車での来訪者には駐車場が確保できない事が考慮される。	○	鳥取文化会館等、周辺の施設からの誘導は十分可能である。	×	-
佐分利委員	○	これまで市役所として、市民が訪れていた所であり、JR鳥取駅から徒歩圏内、市内や郊外からのバスが利用しやすい。隣接した駐車場が無くなる。隣がイオンの駐、駐車場の確保、広い歩道の整備が望まれる。	○	街中であり、久松公園、ホール、わらべ館、やまびこ館、博物館、神社、高砂屋等、県民、市民、観光客それぞれに楽しむ場所がある。	△	○
川井委員	△	鳥取駅から1.0km、徒歩約2.5分の立地。バス停ありという条件は交通アクセスが便利。敷地の狭さ、隣接する市民会館の出入の関係上、駐車場の確保が困難。	△	鳥取砂丘、砂の美術館、仁風閣等の観光施設があり、観光コースの設定は可能。ただし駐車場の狭さから、大型バスの誘導には困難が伴うのではないかと。	△	×
中島委員	△	鳥取駅に近く、市街地であるが、西部地区から2時間かかるので。	△	鳥取砂丘と砂の美術館があるが、車の移動に少し遠すぎます。	○	△
野田委員	△		○	とりざん文化会館、鳥取市文化ホール、敬愛高校、鳥取西校、と連携可能。県内ではもっとも相応しい。	×	△
谷本委員			-		△	-
前田委員	○	JR鳥取駅から徒歩15分と車を待たない県内外の美術ファンにとって行きやすい場所。	○	わらべ館、県立図書館が徒歩5〜8分と近く、誘導可能な施設がある。	○	-
里見委員	○	最寄りのJR駅が鳥取駅で、距離が1km。鳥取駅からは路線バスが10分間隔で運行。県東部、関西からの車のアクセス比較的良好。	○	県立文化会館、久松公園との連携が可能。	○	○
牧野委員	○	JR特急停車駅から徒歩圏内(やや遠いが)であることは、候補地の中で最良。バス便も良好。	○	鳥取駅からの当地までの商業施設、県立博物館、県立図書館、市民会館、鳥取文化会館、わらべ館、県庁などの接近性は最良。	○	△
香川委員	○	バス(くる梨)が利用可。鳥取駅から徒歩圏。駐車場機能が損なわれ、やや離れた駐車場を利用せざるを得ない。	○	若狭街道筋との連携。鳥取市民会館と連携可能。とりざん文化会館との連携も可能か。	○	×
前野委員	○	市街地の中心に位置しており、鳥取駅から徒歩も可、循環バス等の便が良い。	○	鳥取砂丘、鳥取砂丘子供の国	○	×

総合的には×と評価する。

着工が33年以降になりそうで、遅すぎるのではと思われる。

懸念は、市庁舎建て替えは新築となっており、計画通り進むかどうか不透明な要素がある

旧跡とそうでない地盤の違いが大きいため、掘削部の十分な改良が必要か。

資料2 鳥取県立美術館候補地評価表

候補地：わらべ館駐車場と西町緑地敷地

	1 様々な人が気軽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携し易い場所		3 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所									
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携し易い立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。								
宇山委員	×	鳥取駅より1km程度で交通アクセスも利用しやすくなっている。わらべ館の駐車場がなくなるので、駐車場の確保が必要になる。西町緑地、わらべ館の合わせて敷地は4400㎡であり、美術館の高層化が必要とあるが、周辺は住宅や商業施設が混在しており、周囲の環境を考慮した場合は難しい。今は西町緑地があるため落ち着いた環境になっていると思う。	-	-	-	-								
船越委員	△	中心市街地であり、公共交通の便は良い。但し、自家用車で来館する場合の駐車場の確保に難がある。大規模の駐車場が設置されないと、わらべ館への来訪者と年齢層が異なると思われるので、双方の来館者がそれぞれ集中すると駐車できない事態が生ずる可能性が大と考える。	-	-	×	西町緑地整備の際、移転した住宅を含めて隣接する住宅地があり、日照権の問題等はクリアできるのか？								
佐分利委員	○	バスの便が良く、JRの駅や、鳥取の街中から、様々な人が訪れやすい。	○	隣接するわらべ館は、県外からの訪問も多く、子どもから年配まで楽しめる。博物館、県立図書館、とりぎん文化会館、久松公園にも近い。	○	わらべ館、博物館との連携が見込まれる。	×	智頭街道を美術館、わらべ館、博物館への通りとして、太平線通り、ロータリー、智頭橋を通る、ゆっくり歩いて楽しめる街づくりを進める。通りには、おもちゃ屋、薬屋、お菓子屋、苗屋、楽器屋、道具屋等々残っている。歩道の拡張共同した整備が必要。						
川井委員	△	わらべ館前にバス停があり、また、街道沿いの立地。駅から徒歩25分程度の場所にあることは、交通アクセスが便利・容易と評価できる。しかし、敷地が狭く駐車場の確保が困難。福祉文化会館跡地を駐車場とする案もあるが、道路を挟むという難点あり。	△	鳥取砂丘、砂の美術館、仁風閣、わらべ館があり、観光コースの設定は、可能。しかし、敷地の狭さから、大型バスの誘導には困難が伴うのではないかと感じる。	×	西町緑地敷地は、わらべ館を訪れた親子の遊び場、憩いの場として利用されている。視察を実施した日も春休みで訪れた子どもたちが遊んでいた。緑地をなくして美術館とする必要性に大きな疑問を感じる。	×	同左						
中島委員	△	鳥取駅に近く、バスの回数もあり。ただ西部からは車2時間かかる。	△	わらべ館、仁風閣などがある。	○	博物館、図書館などがある。	△	市街地です。	×	面積が4,400㎡で、余りにも狭く。	○	余りに敷地が狭いのが、他の点で合格してもダメではないか。		
野田委員	△		△		△	わらべ館との連携は期待できるが、親客層は必ずしも一致しない	×	わらべ館に隣接する広場はこどもの遊び場となっており、これをなくすることは忍びない	×		△			
谷本委員	-		-		-		×	市街地の中心にあり、美術館や他施設について立ち寄りという行動を介して波及効果が見込まれるものの、敷地面積が狭く、また、近隣に住宅が密集していることから、生活への影響が懸念される。	-		-			
前田委員	○	JR鳥取駅から徒歩16分となんとか駅から歩ける距離である。	○	県立博物館、仁風閣などの文化施設と徒歩でも行ける距離であり、誘導可能な地である。	○	わらべ館が隣接しており、文化施設としての連携効果が期待できる(年間12万羽)	△	立地場所としては良いが、もう少し広い敷地面積がほしい。駐車スペースが近くに取れないこと。	-		-	隣接の住宅地等を追加買収する可能性があれば悪くない場所。		
里見委員	△	・最寄りのJR駅が鳥取駅で、距離が12km ・鳥取駅からは路線バスが3本/時間程度あり、バス停よりすぐ ・県東部、関西からの車のアクセス比較的好まれている	○	・隣接の童謡との連携が可能である	○	・隣接の童謡、近隣の鳥取博物館があり連携しての機能強化しやすい	○	市街地にあり、地元商店街、住民との地域づくり可能性がある。	×		×	敷地面積が4474㎡では、建物規模を考慮すると高層化が前提となり、展示計画、駐車場問題、屋外展示場確保など問題がある。	○	・問題なしと考える
牧野委員	○	JR特急停車駅から徒歩圏内(やや遠いが)であることは、候補地の中で最良。バス便も良好。	○	鳥取駅からの当地までの商業施設、県立博物館、県立図書館、市民会館、鳥取文化会館、わらべ館、県庁等との接近性は最良。	○	鳥取駅からの当地までの商業施設、県立博物館、県立図書館、市民会館、鳥取文化会館、わらべ館、県庁等との接近性は最良。	△	すでに成熟した高度な商業地域を形成しており(その限りでは好立地)、一方では、今後に向かって、美術館立地が更に貢献する伸びしろは低い(投資波及効果は低い)。	×	×	×	設計に対して門外漢であるため確たる評価はできないが、敷地が小さいのでは？周囲に複数の駐車場があっても、他所であるため利用されたい県民性がある。	-	
香川委員	△	バス(くる梨)が利用可。鳥取駅から徒歩圏。駐車場機能が損なわれ、やや離れた駐車場を利用せざるを得ない。観光バスの駐車に難。	○	鳥取市民会館と連携可能。とりぎん文化会館との連携も可能か。	○	わらべ館との連携が考えられるが、客層は同じか。一貫した外観デザインは必要か。県立図書館、公文書館との文教連携は可能。	×	智頭街道筋との連携。わらべ館隣接の駐車場(観光バス駐車可)および緑地を失うことで、わらべ館の魅力が削がれないか。	△		△	やや狭い。周辺に観光バスを停められる駐車場を新たに確保する必要がある。民有のカフェとの連携は。	△	河川災害には対処可能。土砂災害の影響は小さいと思われる。周辺観測では地盤卓越周期0.7秒程度であり軟弱層が比較的厚いと思われる。
前野委員	○	市街地の中心に位置しており、鳥取駅から徒歩も可、循環バス等の便が良い。	○	鳥取砂丘、鳥取砂丘子供の園、鳥取県立博物館、鳥取市歴史博物館、仁風閣	○	鳥取市立博物館、鳥取市歴史博物館	○	鳥取市の中心に位置している	×		×	西町緑地敷地は現在子供が遊べる芝生広場となっており現在有効活用されている。駐車場2526㎡と緑地1948㎡を合わせても面積的に十分でないと考えられる。	△	千代川浸水想定1-2m

できればジャストポイント、可能な限り近傍におけるボーリング情報により、地下構造を把握しておくこと

	1 様々な人が気軽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携しやすい場所		3 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所	
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携しやすい立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。
宇山委員	×	交通アクセスは十分確保されているが、駐車場確保が課題である。周辺は県立博物館、仁風閣、久松公園と観光地があるが、県庁駐車場も利用しているが慢性的に駐車場不足にある。現状では駐車場の確保について明確になっていない。	-	-	-	-
船越委員	×	県庁に隣接していることもあり、公共交通利用のアクセスは良い。但し現地に於ける説明で、県の各関係部署の考えは、美術館が隣地に建設されるのは迷惑と言わんばかりに感じられた。緑地との一体化が困難とすれば駐車場の確保は不可能である。	○	博物館とは至近距離にあり、相互に誘導は可能。	-	土地は隣接する県有地との一体化ができなければ狭小である。
佐分利委員	△	通常のバス通りから少し離れている。「くる梨」が回る。駐車場スペース、特にバスや、障がい者用の駐車場がとれるか分からない。	○	久松公園、仁風閣、博物館、寺院、図書館、とりぎん文化会館等に近い。特に鳥取城址の文化施設群として一連の訪問先となり得る。	○	城址一帯の文化的価値が上がる。
川井委員	△	付近にバス停あり、街道に面した立地はアクセスが便利・容易といえる。しかし、敷地の狭さから、駐車場の確保が困難と思われる。鳥取西高校への入り口道路を確保する必要があり、駐車場の形状にも制約が多いのではないかと。	△	鳥取砂丘、砂の美術館、仁風閣、わらべ館などがあり観光コースの設定は可能。駐車場の狭さなどから、大型観光バスが入ることに困難が伴うのではないかと。	○	県立博物館からの距離が比較的近く、文化施設との連携が可能という評価はできる。
中島委員	○	県庁近くで市街地なので。	△	わらべ館少し遠い。仁風閣×ジャーでない。又博物館・歴史博物館は近いが、多分何か所も見られる人は少ないでしょう。	○	図書館・博物館・とりぎん文化会館など近くに色々な施設がある。
野田委員	△		△		×	公園内なので、難しいのではないかと。
谷本委員	-		-		△	博物館に近く、文教面での連携がとりやすい立地である。しかし、埋蔵文化財の調査や県との連携に関する調整のハードルが高く、地域づくりへの貢献が十分に発揮できないリスクが無視できない。
前田委員	△	JR鳥取駅から徒歩20分と、徒歩では行きやすい距離とは言えない。	○	文化施設との誘導は可能であるが、敷地面積、交通アクセスなど総合的に考えると。	○	県立博物館、仁風閣、鳥取城址と文化施設との連携効果は期待できる。
里見委員	△	・最寄りのJR駅が鳥取駅で、距離が1.5km ・鳥取駅からは路線バスが3本/時間程度あり、バス停よりすぐ ・県東部、関西からの車のアクセス比較的恵まれている	△	・周辺は鳥取博物館、仁風閣、久松公園があり文化拠点となっている	○	鳥取博物館が近隣にあり連携しての機能強化しやすい。
牧野委員	○	JR特急停車駅から徒歩圏内（やや遠いが）であることは、候補地の中で最良。バス便も良好。	○	鳥取駅からの当地までの商業施設、県立博物館、県立図書館、市民会館、鳥取文化会館、わらべ館、県庁等との接近性は最良。	○	鳥取駅からの当地までの商業施設、県立博物館、県立図書館、市民会館、鳥取文化会館、わらべ館、県庁等との接近性は最良。
香川委員	○	バス（くる梨）が利用可。近隣に駐車場を整備する必要がある。県庁北側緑地が候補か。	○	とりぎん文化会館、県立博物館、県立図書館、公文書館との連携も可能か。	○	博物館に加え、仁風閣をはじめとする城址公園との連携は取り易い。
前野委員	○	市街地の中心に位置しており、循環バス等の交通の便が良い。	○	鳥取砂丘、鳥取砂丘子供の国、鳥取県立博物館、わらべ館、鳥取市歴史博物館、仁風閣	○	鳥取県立博物館、わらべ館、鳥取市歴史博物館など

武道館は武道館として、あの場所にある意味もあると思われる。

できればジャストポイント、可能な限り近傍におけるボーリング情報により、地下構造を把握しておくこと。

資料2 鳥取県立美術館候補地評価表

候補地：湖山池公園・湖山池オアシスパーク（多目的広場）敷地

	1 様々な人が気軽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携しやすい場所		3 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所	
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携しやすい立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。
宇山委員	×	美術館来館者のうち、日ノ丸自動車の湖山鳥大線（鳥取駅～鳥大付高橋（布施経由・相生町、西品治経由上り、下り））を利用する場合、利用時間帯は上り下りそれぞれ1日5本～7本程度と予想されるが、この間の運行間隔は1本あたり下りは3分～2時間50分、上りは30分～1時間5分程度と利用しづらい。ループ駅隣湖山池ナチュラルガーデン下車もあるが夏季（7/20～8/31）土日祝日限定になっている。	-	-	-	-
船越委員	△	JR湖山駅からは1.5Km程度であるが、コンセプトにあった主要駅とは多分特急列車が停車する駅との事であろう。そう考えると鳥取駅が起点となり5.7Kmになる。となると徒歩圏内ではなく、各駅停車に乗り換え湖山駅まで行くか、路線バスに乗り換える事になる。ただ、路線バスの便は良いとは言えない。増便も考えられるが、美術館に行く乗客のみの増便では採算が合うのは難しいのでは。駐車場の確保は十分可能と考える。	△	△	○	-
佐分利委員	△	バス路線はあるが市内に比べて、台数が少ない。JR鳥取大学前駅は米子方面の特急も止まり、約1時間と便利である。自動車道、空港からは、市街地を通らずに来ることができ、便利である。駅は徒歩圏内だが、特に駅から空港線までの歩道の安全確保が必要。	○	○	○	○
川井委員	△	国道9号線から南に入ったところであり自動車でも来訪しやすい面はある。鳥取駅から1日12便のバス。土・休日にはループバスが1日12便運航とのことであるが、便数が少なく、所用時間が45分と長い。	×	○	×	△
中島委員	×	鳥取駅から時間がかかる。バスの回数が少ない。また西部地区から2時間。	△	○	×	○
野田委員	×	アクセスが悪い	×	△	△	△
谷本委員	-	-	-	-	×	-
前田委員	×	交通アクセスが良くない。	×	×	×	-
里見委員	△	・最寄りのJR駅が鳥取大学駅で、距離が1.2km ・鳥取駅からは路線バスが12本/日程度あり、バス停よりすぐ ・県東部、関西からの車のアクセス比較的車まわっている。	△	△	△	○
牧野委員	△	JR特急停車駅から徒歩圏内ではない。県外、国外からの訪客を想定する時、普通列車の停車駅とのアクセスは価値低。バス便も良好とは言えない。県外公共交通機関に関しては、鳥取駅、倉吉駅、米子駅、鳥取空港、米子空港、境港を考慮すべき。	×	×	×	-
香川委員	△	バスは少なく、JR駅から徒歩圏ぎりぎりであり、車での移動が主となる。駐車場は整備可能。	△	○	△	△
前野委員	△	路線バスの便数1日十数便、土日祝日夏季はループバス有	△	○	○	△

近くに養鶏場があるとのことで、匂いが感じられることもあるそうです。

近隣の飲食関連施設が埋蔵でも1.2Km程度離れているとの事で、この点はマイナス要素。過去に湖山池から臭気発生するという騒ぎがあったが、今後同様の事象が発生する懸念はないか。

湖に面した鳥取美術館と似てくるので、どのような特徴を出すかが問題である。

できればジャストポイント、可能な限り近傍におけるボーリング情報により、地下構造を把握しておくこと。地震時の液化化可能性も要確認。

	1. 様々な人が気軽に訪れることのできる場所		2. 地域づくり、まちづくりと連携しやすい場所		3. 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所								
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携しやすい立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。							
宇山委員	△	美術館来館者のうち、日ノ丸自動車、日本交通の砂丘線（鳥取駅～子供の国入口 上り、下り）及び日本交通の岩美・岩井線（鳥取駅～子供の国入口 上り、下り）を利用する場合、利用時間帯は上り下りそれぞれ18本程度と予想されるが、この間の運行間隔は1本あたり平均23分程度である。ほかにループバスも運行している。観光シーズンにおいて渋滞が発生している気にかかることである。	○	鳥取砂丘の年間入込数130万人の誘導が可能である。砂の美術館との連携が相乗効果につながる。（風光明媚は抜群）	-	-	-	-					
船越委員	×	公共交通によるアクセスは、鳥取駅から6km余りで近くも遠くもないと感じられる。しかしバスの便が1日12便（平日）では少ないと感じる。バス停が離れており候補地まで経路を迂回せねばならないが、採算がどうなのか疑問。	○	鳥取砂丘の中なので誘導は大いに可能。	-	-	×	建築物に関する法的な制約が色々あり、特に見過ごすことができない点は、分棟が避けられないという事である。					
佐分利委員	△	砂丘子どもの国も入り口までしかバスが来ないが、美術館、子どもの国等を經由するバス路線ができれば、様々な人が訪れやすい。JR 駅、市街地から離れているが、車でのアクセスは良い。	○	鳥取砂丘の、西側からのアプローチとして興味を持たれる。鳥取城跡一帯と連携して、観光ルートをつくる。城跡から、砂丘美術館へのループバスを作る。	○	子どもの国、アリドーム、砂丘関連の歌碑、砂丘への導入など、鳥取砂丘の美術館ならではの特色を持った美術館になる。砂丘は近隣と言ふよりは、鳥取県全体の文化施設と関連づけるべき。	○	鳥取市内の人たちは、かつて砂丘には歩いて行ったそうである。美術館ができれば、市民が訪れ、観光地としてだけでなく身近なものとして再び砂丘一帯が遊び場になるであろう。また、砂丘と関連づけた展示の工夫によって、世界からも観光客が訪れる。	△⇒○	建ぺい率が低く、建物が分散される。建て方、デザイン、運用のアイデアで、世界に類をみない美術館ができる。障がい者等の移動の方法を考えた施設のアイデアが、ユニバーサル施設の発信源になれる。眺望は、様々な人を喜ばせるものになる。	-	他の地域の候補地の多くが郊外であった。砂丘であれば鳥取市の言うより、鳥取県のことということで、納得できるのではないかと。塩害について、英知の結集、逆手にとったアイデアでどこにもないものになる。砂丘パレスのように訪れる人が少なくなるのが懸念されるが、その上のゴルフ場は大丈夫らしいので、あの場所でも大丈夫かと思われる。	
川井委員	×	鳥取砂丘からやや距離があり、また、自動車でなければ訪れることが難しい立地。砂丘に来た観光客がわざわざ美術館を訪れるかという点に疑問が残る。県民には行きづらい場所ではないか。	○	鳥取砂丘、砂の美術館等が近く、観光コースを設定することは可能。	×	文化施設、教育機関との連携は図りにくいのではないかと。	×	立地場所からすると、美術館が孤立する可能性があるのではないかと。	×	収蔵品に対する塩害の影響を抑えるための費用がかさむリスクがある。建ぺい率、容積率の関係で、建築の制約が多く、美術館機能を分散させる必要も出てくる。収蔵品への影響を考えると、現実的ではないのではないかと。	-		
中島委員	△	鳥取駅からかなり離れている。また西部地区から2時間位かかるので。	△	砂丘の中にあり、子どもの国。	△		△		×	自然公園法に基づく「第2種特別地域」になっており、様々な制約がある。	△		
野田委員	○	年間130万人集客の実績	○	鳥取県を代表する観光地での立地	△	砂の美術館との連携	○	観光地への立地で鳥取県を全国に発信できる	○	十分な広さがある	○		
谷本委員	-		-		-		○	眺望が非常に良く、また、環境省の整備構想とも合致しており、日本有数の観光地というメリットを十分に享受できる立地である。観光客の誘致という観点での地域づくりには多大な貢献が期待できるが、地元地域と距離があるのが懸念される。	-		-		
前田委員	△	JR鳥取駅から距離があり、交通アクセスは良いとは言えない。バスが車を利用。	○	砂丘は背景としては眺めは抜群である。観光客には良いが、県民にとっては疑問。	△	文化施設としては、子どもの国、砂丘、砂の美術館などと連携しやすく、また、多くの県内外の観光客が見込める立地である。	△	鳥取砂丘を中心に砂の美術館、子どもの国、砂丘ジオパークセンターと周辺地域づくりに貢献可能な土地である。	-		-		
里見委員	×	・最寄りのJR駅が鳥取駅で、距離が6.3km ・鳥取駅からは路線バスが12本/日程度あり、バス停より徒歩12分 ・県東部、関西からの車のアクセス比較的恵まれている。	△	鳥取砂丘の一画にあり、訪問客の誘導が期待できる	△	・鳥取砂丘の一画にあり、砂の美術館、ジオパークとの連携が可能であるが、砂丘との歩行距離が障害となる	△	鳥取砂丘の一画にあり、相乗効果が期待できる。	△	敷地面積はあるが、国立公園内の規制により、建物の高さ、分棟化が必要となり建築計画上の制約となる。 ・敷地にレベル差があり、バリアフリー化に支障があり、コスト上昇の可能性がある。 ・海岸線に近く、塩害対策が必要となる。	○	問題なしと考える。	
牧野委員	×	JR特急停車駅から徒歩圏内ではない。バス便も良好とは言えない。	×	郊外型立地であり、他の集客施設との連携は期待薄。他の候補地と比べると、砂丘を訪れる動機と美術館の存在価値の一体性は低い。	×	郊外型立地であり、他の集客施設との連携は期待薄。他の候補地と比べると、砂丘を訪れる動機と美術館の存在価値の一体性は低い。	×	美術館新設に誘発される新規立地が期待される施設が思い浮かばない。美術館以外に新たに投資して地域づくりを推進する必然性、可能性が感じられない。	×	機能性維持のための施設整備の具体論については門外漢である。切り土、盛土工事の費用が増大する。砂、塩分を含む風さらされる是非に疑問を感じる。	-		
香川委員	△	循環バスはあるが、車での移動が前提となる。	△	砂丘観光および子どもの国との連携が考えられるが、客層は同じか。砂の美術館との連携は可能。	△	砂の美術館を介して、砂丘とアートを繋ぐ連携は可能か。	×	眺望は良い。別途ツアーを組まないと、鳥取市街は素通りになる懸念あり。柳茶屋キャンプ場の代替施設。	△	建ぺい率(20%)、容積率(40%)の制限から、広さの割に必要な土地はぎりぎり。高低差(段差)への対応(バリアフリーなど)が必要か。土地造成の費用が懸念される。	△	古砂丘上の比較的堅固な地盤と思われる。周辺観測では地盤卓越周期1秒程度であり、岩盤までの堆積層は比較的厚いと思われる。	できればジャストポイント、可能な限り近傍におけるボーリング情報により、地下構造を把握しておくこと。
前野委員	○	鳥取駅から子どもの国へバス20分毎、土日夏季にはループバス有り	△	鳥取砂丘、砂丘の美術館に近く、砂の美術館との連携は可能。子どもの国は近いが、目的の異なる訪問客ではないか。	△	市内の文化施設とはやや離れている。	○	景色はよく、鳥取砂丘一帯として地域づくりに貢献できる。	△	砂丘荘跡地(市有地)12419m ² 、青年の家跡地(市有地)6552m ² 、砂丘パレス敷地(民有地)8317m ² 、公園用地(市有地)7234m ² と面積的には大きい分散しており、公園法による建ぺい率により建物も分散させる必要がある。	○	浸水想定無し	

資料2 鳥取県立美術館候補地評価表

候補地：倉吉市菅ラグビー場

	1 様々な人が気楽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携し易い場所		3 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所							
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携し易い立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。						
宇山委員	○	鳥取県の中央にあり、東部、西部から県民が利用しやすい。また観光客も呼び込める。倉吉駅から市内線で最寄りのバス停（倉吉パークスクエア北口）まで平日上り122便、下り124便。他にパークスクエア線で合同庁舎前まで上下それぞれ6便と交通アクセスは抜群に良い。三朝温泉からのバス路線もある。駐車場確保もOK	○	物販・娯楽施設、商店街等についてもパープルタウン、市営温水プール、食影館、未来中心交流プラザと利用客を呼び込める。観光施設として赤瓦・白壁土蔵群、二十世紀記念館、打吹公園、博物館と徒歩圏内にあり十分に誘導可能。	-	-	-	-				
船越委員	○	県中部の主要駅である倉吉駅から約3km離れているが、候補地の周辺には路線により異なるバス停が数多くあり、隣接・近接して数か所あり5-10分/日も運行されているとの事で、公共交通利用者のアクセスは便利・容易である。自家用車で訪れる人が多いと思われるが、周辺の道路事情もよく、隣接する未来中心の広い駐車場が共用できるし、増設も可能である。従ってこの条件には全く問題がない。	○	隣接する未来中心は、鳥取県内3大コンベンションホールの一つであり、各種の催しもよく開催される。隣り合わせの立地のため、移動する時に一般道路を横断する必要もない。従って未来中心の訪問客・参加者を美術館へ誘導する事は十分可能と考えられる。	○	候補地はパークスクエアと呼ばれる地域内にあり、同一区内に未来中心の他に図書館、梨の博物館、プール等もある。複合文化施設との位置づけがされている。	-	-	○	一つの区画では条件がクリアできない候補地が多い中で、最も条件に合致した候補地と考えられる。	-	-
佐分利委員	△	県中部で、車では全県から同じような時間で来れる。一方、バスが1日6便と少なく、大通りは60便のバスが運行しているが、数百mの距離だとしても、障がいのある人や高齢者、幼児などが安全にゆったりと美術館に来ることができる道路整備が必要等、課題がある。	○	パークスクエア複合ゾーンのホール、会議室、二十世紀記念館、交流プラザ、図書館、温水プール、飲食店等がある。マーケット、商店街も近い。白壁土蔵群、椿の平とも近い。東郷、羽合、三朝の温泉街がある。	○	未来中心、梨記念館、交流プラザ、市博物館、倉吉短大との連携が可能。東高校、東中、上灘小などの学習に貢献できる。幼児、高齢者の施設も近接している。公民館も周辺にあり、様々な層の利用が見込める。	△	パークスクエア複合ゾーンの一角として、倉吉市の進める文化施設整備の中核施設になる。一方で、ラグビー場を追い出すことになり地域の文化を中断することになる。大御堂廃寺の史跡整備を今後どうするかの問題もある。	△	用地は広々としており、建物と敷地内の環境は美術館の機能、ユニバーサルな施設整備も可能である。隣接の史跡をどのように運用するか、あるいは整備するから、美術館のありようが変わってくる。	○	-
川井委員	○	倉吉未来中心に隣接しており、無料で利用できる駐車場の収容数も多い。バス停が付近にあり、バスの本数の増便も可能とのことである。倉吉駅からの距離が徒歩にはやや遠い(3km)という懸念はあるが、他の候補地に比較すれば、アクセスが便利・容易である。	○	倉吉市は全国的にも知名度があり、白壁土蔵群、打吹公園、二十世紀記念館などの観光施設と共に、観光コースを設定することなども想定される。駐車場の敷地が広大であるから、観光バスの駐車も可能。	△	倉吉市立博物館があり、地元出身の芸術家の作品を収蔵している。県立美術館の建設により市立博物館との競合(ダブル)の懸念もあるが、協働していくことで相乗効果を期待することもできるものとする。ただし、教育機関との連携については未知数。	○	トリエンナーレとの連携により、美術館が地域づくり、まちづくりの一端を担うことにもなる。	○	現在のラグビー場の代替施設を作る予定など、関係機関との調整も行っていることが窺われる。敷地面積は22,000㎡以上あり、候補地として問題は少ないと思われる。	-	-
中島委員	○	倉吉駅から近く、定期バスの回数も多い。	○	二十世紀記念館、赤瓦・白壁土蔵群など。	○	未来中心・交流プラザ・博物館・鳥取短期大学・鳥取看護大学も近い。	○	市内中心にあり、商店街近くにあり。	○	面積も22,000㎡あり、既に土地も整備されていて、更に上灘公民館の駐車場が利用できる。	○	-
野田委員	×	アクセス悪い。	△	未来中心の来場者と美術館の来場者の層は必ずしも一致しない。	×	未来中心以外に文化施設や教育機関はない。	×	大御堂廃寺跡と美術館の立地は関係がない。	○	-	○	-
谷本委員	-	-	-	-	-	-	○	倉吉未来中心や白壁土蔵群等の周辺施設との連携に基づいた地域づくりが期待できる。ただし、中心市街地や周辺施設(倉吉未来中心を除く)からは若干の距離があり、ついでに寄るといった行動など、波及効果がどこまで顕在化するのかわからない。	-	-	-	-
前田委員	×	JR倉吉駅から3km、バス停から150mであり、交通の便が良いとは言えない。	△	他の施設との連携は限定的である。	△	梨っこ館、未来中心、市立図書館が集まっている所ではあるが、果たして美術館との連携に疑問。	△	倉吉パークスクエアを中心として美術館と連携した可能性はある。博物館や民間施設との相乗効果もある程度期待できる。	○	-	-	-
里見委員	○	・最寄りのJR駅が倉吉駅で、距離が3km。 ・倉吉駅からは路線バスが10分おき程度あり、バス停より徒歩4分 ・県東部、西部、岡山からの車のアクセス比較的良好に思われる。 ・周辺の駐車場の整備状況が良い。	○	・周辺に倉吉未来中心、倉吉図書館、倉吉博物館、白壁土蔵赤瓦と集客施設が存在する	○	・周辺の文化関係施設との連携が期待できる。	○	・周辺に倉吉未来中心、倉吉図書館、倉吉博物館、白壁土蔵赤瓦と文化度の高い施設が存在し、地域づくりの相乗効果が期待できる	○	・候補地は平坦で、敷地面積もあり建築計画には問題はない。 ・周辺駐車場の整備状況もよく、敷地を美術館に有効に利用できる。 ・隣地に文化財埋蔵地があるが、史跡範囲が確定しており建物建設の可能性のない分景観上の優位性が保たれる。また埋込深さが少ないと屋外展示にも利用が可能とのことである。	○	・問題なしと考える
牧野委員	○△	JR特急駅の徒歩圏内でない。バス便は最良。県外、国外からの利便性は、空港、海港を考慮する時、県西部に劣り、県東部に劣る。	○	倉吉パークスクエア(梨記念館、会議場、飲食施設等)、スーパーストア、市立図書館(会議場併設)が隣接し、徒歩圏内に、倉吉市役所、市立博物館、白壁土蔵群等が立地。周囲は、県中部有数の商業地域。	○	倉吉パークスクエア(梨記念館、会議場、飲食施設等)、スーパーストア、市立図書館(会議場併設)が隣接し、徒歩圏内に、倉吉市役所、市立博物館、白壁土蔵群等が立地。周囲は、県中部有数の商業地域。	○	市街地内に残された広大地であり、隣接することとなる大御堂廃寺跡も含め、従来より再開発が期待されている立地。周囲には市街地でありながら未利用地もあり、市街地的、街づくり的投資波及効果が認められる。	○	隣接する市有地を考慮する時、必要とされる土地の拡大提供は容易。	-	-
香川委員	△	車での来場については、駐車場は大型車を含めて周辺で十分に確保できる。空港、JR駅から距離はあるが、倉吉駅からのバス停にも近い。	○	パークスクエア、白壁土蔵群などとの連携が可能。	△	倉吉博物館、図書館との連携が可能。博物館とは競合になる危惧もある。	○	ラグビー場は別の場所でも円満に代替可能。大御堂廃寺跡、白壁土蔵群などの文化的連携。	○	広さは十分。建物予定地は大御堂廃寺跡の文化財対象外。	○	周辺調査での地盤固有周期は約0.3秒で、地盤は比較的堅固と思われる。河川災害、土砂災害の危険は小さいと思われる。
前野委員	○	倉吉駅からバス1時間に数本、バス停から300m	○	未来中心(年間20万人程度)、二十世紀記念館(11万人)、赤瓦、白壁土蔵群(60万人)	○	未来中心、図書館、博物館、歴史資料館等	○	白壁土蔵群、博物館などと一体として地域づくりに貢献できる。	△	倉吉市有地22000㎡。ただし、現在ラグビー場であるため移設する必要がある。移設先の確保と費用が不明。	△	天神川の洪水想定1-2m

同一区内に飲食施設食影館があり5店舗が営業中で、来館者の飲食にも対応可。倉吉市の推薦調整を精査すると素早い候補地と認められます。

できればジャストポイント、可能な限り近傍におけるボーリング情報により、地下構造を把握しておくこと。